両親の気持に感謝して

岡村英子
（家事手伝・臼井）

最近、いろいろなことを考える「人はなぜ生きているのだろう。なぜ生きなければならないのだろう。私の生きがいってなんだろう」などと……。

以前は家の仕事がいやだった。ある日、父と一緒に親せきに行った時、父がおばに「私が仕事の手伝いをしてくれるので助かっている」といった。

その言葉が私の胸に響いている—生懸命仕事をやった覚えもなくむしろ遊びに出ることを考えていたのに——

そして他の土地で数か月間暮らした。そこで子を思う親の気持というものを教えられた。

私もずいぶんと心配をかけたと思う。これからは両親に感謝し、心配をかけないようにしたい。

人に愛される人間に

本田正宏
（信用組合勤務・白根）

これからの自分は人に愛される人間でありたい……そのためには自分自身〝愛の念〟を持って人に接したい。

この気持を持つことは、仕事の上でも、いろいろなことをやるにしても必要なことだと思う。

愛の念を持った人は何でも進んでやろうとする……人間いわれたことだけして、後は知らん顔ではその人の大成は望めない。

人生において大切なことは、ミスを犯すか犯さないかではなく、その人間が、どんな姿勢で仕事や人生に打ち込んできたかではないだろうか。

今は自分にとって、いろいろな面で考えさせられる時であり、自分自身大きく前進しなければならない時でもあると思う。

良き友をえたい

石山正秋
（農　業・大郷）

なんとなくタバコをくわえ、夜ふけの窓を見る——むなしく悲しい。なぜなんだろう？　だって大人になりたくないんだもの。

大人はずるい、自分さえよければそれでいい。「人よりえらくなりたい」　「金持ちでありたい」「酒を飲んで自己を忘れたい」。だからなりたくないんだ。

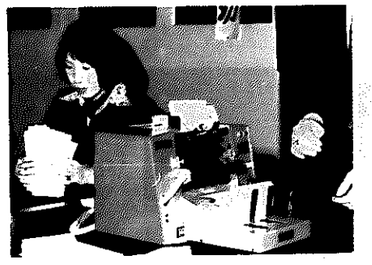
俺は海の男が好きだ。自己を忘れ冒険できるから。コロンブスやマゼランは幸福だったろうな。

でも、俺にはそんなことはできない。おやじ、おふくろのことを考えてしまう。

友だちがほしい。男でも女でも真実を話し、うれしさを2倍にし苦しみを半分にしてくれる本当の友だちが——これが、20歳になった俺の願いです。

低調、県知事選

白根でも君氏



〝票〟計算に機械が登場

任期満了にともなう県知事選挙は、四月二十三日即日開票され、君　健男氏が当選しました。

全県的な選挙ムードの低調さからか市の投票率も低く、四十九年に行われたときより一二・九五％下回りました

また、今回の開票事務には票を計算する機械『ビルコン』も登場——事務の能率化に威力を発揮していました。

本市の投票結果は、次のとおりです

■**当日の有権者数**……二万三千二百三十四人（男一万一千百五人　女一万二千百二十九人）

■**投票率**……四八・四二％（男五二・四九　女四四・七〇％）

■**候補者得票数**

＊君　健男（自現）七千三百九十七票

稲村稔夫（無新）三千七百二十二票

第一中の真保孝子さんが中学生の『芥川賞』といわれる文学賞を受賞

大凧の様子をいきいきと描きうたった、真保孝子さん（第一中三年）の散文詩が、中学生の『芥川賞』ともいわれる中学生文学賞をみごと受賞しました。

これは、全国の中学生に愛読されている教育文学月刊誌『中学生文学』に〝私たちの作品〟として昨年の一月号から十二月号までに掲載された、何千もの作品の中から選ばれたものです。

審査員の一人で詩人の吉田瑞穂さんは、孝子さんの作品を「対象から受けた詩的感動をよく表わしている秀作——」と、評しています。

うれしすぎて…

真保孝子

受賞という大きな喜びを知った瞬間、体がフワッと軽くなるのを感じました。

自分で自分を疑ってみたり、大きなできごとすぎて夢かとも思いました。そのうちに、あまりうれしすぎる自分がこわくなりました

自分で気持があやふやなときに友だち、先輩から「おめでとう」の言葉は、どんな表情で自分自身受けとめていいのか顔をこわばらせてしまいました。

私が文芸クラブに入部して一年たちます。

始めて掲載された時には、友だちと手をとって喜び、何ともいえない活字の詩を、うれしく読みました。その私が受賞！

これからも自分の心に素直にとりくんでいくとともに、そばで力になってくれた友だち、先輩、先生方をありがたく思っております

受賞作品

凧

そよ風が吹いて　緑の木々がゆれる
川に小さな波が立つ
凧は上がる——力強く　そして雄大に

畳二十四枚敷ける大凧が
川の向こうとこちらで上げられる
六月のそよ風の中　輝く田の上に
凧は上がる——さわやかに　軽やかに

凧綱を引く人の額に汗が光る
一斉に走る足　大きなかけ声
風をはらんで大凧は　見ている人達の期待をのせて
凧は上がる——自由　きままに

凧　を引く人のあの威勢のよい声
を聞いていると胸がホカホカして
くるようで　何でもできそうな気
がしてくる　心の奥から力強い呼
び声がひびいてくる
私が私じゃないみたいに
これが——これが私の心なのか
それとも——ふるさとの力
どんなことをしたって　笑顔を忘
れられなくなってしまいそう

そよ風が吹いて　緑の木々がゆれる
川に小さな波が立つ
凧は上がる——人々の幸福をのせて

プロフィール

昭和三十九年一月五日生まれ。

真保潔一・喜江さんの長女。住所は櫛笥。好きな学科は英語。将来は保母になることが夢。